

1 研究テーマ

イキイキワクワク、子どもたちが「楽しく」取り組む英語活動
～高学年を中心に～

2 はじめに

現行の英語活動は、「総合的な学習の時間」の中に位置付けられている。しかし、行われている活動は、教師から与えた歌やゲームを中心とした「遊び感覚の楽しい活動」が多く、「総合的な学習の時間」の趣旨とずれているように感じる。そして、このような英語活動の経験を重ねた高学年では、英語活動を楽しめないとする児童が増え、「声を出さなくなる」「ゲームののりが悪くなる」といった姿が見られる。英語嫌いを育てないためにも、今一度、ねらいや活動の在り方を捉え直し、児童が「学ぶ楽しさ」を感じながら意欲を持って取り組める英語活動を探りたいと考えた。

3 研究の目的

- 1) 高学年段階に合った体験的な英語活動の内容や単元構成、授業展開を探る。
- 2) 「総合的な学習の時間」の中に位置付けられた英語活動の考え方に基づいて所属校の目標を見直し、評価規準及び児童の発達段階に即した系統的な年間指導計画の作成を行う。

4 研究の内容

高学年はなぜ難しい？

・「内容」と「活動」のバランス
・「楽しい」の中身の違い

高学年での意欲の変化の原因
心身の成長と英語力の発達の間でできる「ミゾ」が拡大することにある。
(佐賀県教育センター宗誠氏の講義より)

対策
内容と活動にひと味加えることでバランスをとる。
「楽しさ」の質の変容を図り、「お楽しみ会的な楽しさ (amusing)」から「学ぶ楽しさ (interesting)」につながる活動へと転換していく。

↓

・お楽しみ会的な「楽しさ」 (AMUSING)
・日常的、身近なことを中心に、色・数字・体などといった題材
・楽しく触れたり慣れたりするゲーム中心

・学びの「楽しさ」 (INTERESTING)
知的好奇心を刺激する内容
・他教科や各学年の総合的な学習の時間の内容との関連を図った題材
・「へー」という新しい学び及び異文化や自文化への気づきへ広がる内容
達成感が得られるような活動
・問題解決的な活動や流れ
・目的や必然性のある課題に向けた活動

年間指導計画の作成

年間指導計画の在り方
中学年段階でも「学びの楽しさ」の視点を持って単元を開発し、年間指導計画を作っていくことが必要である。
単元の配列に当たっては、英語活動の経験年数が浅いうちは、リズムに触れたり、体を動かしたりして英語の語彙や表現に慣れる活動を、また、経験を重ねるにつれて、英語の語彙や表現は同じでも、それらを使う楽しさや学ぶ楽しさを感じられるような活動を多く取り入れる。
このようにして、高学年児童でも興味を持って活動に取り組むような、発達段階に合った年間指導計画にすることができる。

5 検証授業の展開

<視点1> 知的好奇心を刺激する内容

時差や気候の違いへの気付き。
社会科（地図）、理科（天気、気温）の学習との関連。

<視点2> 達成感を得られるような活動

旅行計画書を作ることがゴール。
振り返りカードを活用した児童の見取り。
地図やインターネットでの調べ学習。
英語を聞く必然性を持たせた時差時計作り。

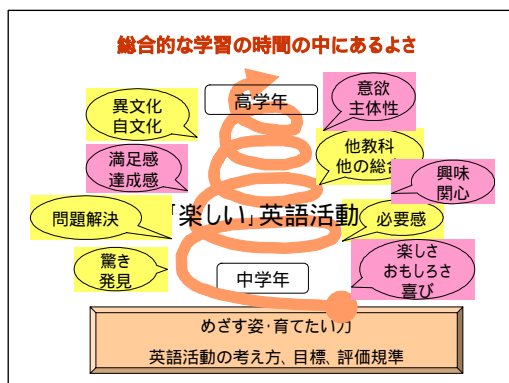
外国の時刻調べをとおして、繰り返し尋ねても不自然でない時刻の言い方の練習。

<「楽しさ」の中身>

授業後のアンケート結果は右のようになった。自由記述からは、楽しさの中身として、これまでの学習との違いをつかみ、知的な楽しさや学びの楽しさを感じていることが読み取れる。

6 研究のまとめ

英語活動の経験を重ねた高学年では、英語そのものを学ぶのではなく、英語をとおして新たな知識を得たり達成感を感じたりする活動を行うことで、英語を学ぶ楽しさや使う楽しさを感じさせ、意欲を高めていくことができる。



7 今後の課題

「英語活動といえば歌にゲーム」という担任やALTの意識をかえ、「学びの楽しさ」につながる内容や活動を取り入れた単元開発を行う。
担任単独でも行えるように、特に音声面の教材を事前に作っていく工夫をする。
小中連携を深めるために、授業を参観し合ったり、ALTとの打ち合わせに入ってもらったりするなどの取り組みを積極的に推進する。
評価規準に基づいて児童の姿や思いを見取り、明確な根拠を持って評価をする。そして、それを授業改善につなげる。

8 おわりに

この研究をとおし、学習の「楽しさ」を見直すことで、英語活動が「総合的な学習の時間」であることのよさがはっきりわかった。「総合的な学習の時間」の中で英語活動を行うからこそ、多様な要素を含んだ内容や活動が可能になり、子どもたちが自分の世界を広げ、言葉の力だけではない人間的な成長をとげる可能性が膨らんでくる。そして、教師としてもいろいろな試みができるおもしろさがあると感じた。これからも、「楽しさ」の中身を常に意識しながら、英語活動をとおして子どもたちを育てていきたい。

検証授業(1)

「外国へ出かけよう！」(5年、全4時間)

・ねらい

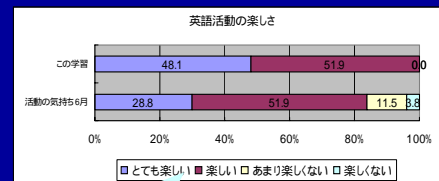
- ・時刻や衣類の言い方に慣れる。
- ・時差、気候の違いに気付く。

・内容

- ・異文化への気付き、教科との関連

・活動

- ・問題解決的な学習
- ・調べ学習
- ・英語を聞く必然性
- ・自然で意味のある練習



- ・時差時計を作ったこと
- ・パソコンで天気や温度を調べたこと
- ・いろいろな国や時差について知ったこと

「楽しさ」の中身

- ・英語を聞いてできた達成感
- ・異文化への気付きや新しい学びへの喜び